

令和3年度 学校評価書(共通) 後期

校名

宇和島市立戸島小学校

1 自己評価書

教育目標						ふるさとを愛し、たくましく生きる児童の育成						
基本方針						① 他を尊重し協働しながら、自分の可能性に挑戦する児童を育成する。② 地域の教育資源を活用すること子どもたちが地域に向くことを通じて、地域とともにある学校づくりを推進する思いやりと活力に満ち、安全・安心で充実した教育環境を整える。③ 思いやりと活力に満ち、安全・安心で充実した教育環境を整える。						
本年度重点目標						1 学びを伸ばす 2 生きる力の充実を図る 3 働き方改革を進める 4 地域とつながる						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価							
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	B						
	②	授業改善	自ら学ぼうとする意欲を高めるために発問を工夫し、主体的な学びの実現に向けた授業改善に努めた。(受け身の授業からの脱却)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B						
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	B						
			一人1台端末(iPad)の効果的な活用を通して、主体的に学びや個に応じた学びの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A						
	③	家庭学習の充実	授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A						
	④	読書活動の充実	読書に対する関心意欲を高め、読書習慣の定着に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B	B						
	⑤	ふるさと学習及びESDに関連する学習	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B						
	(成果と課題) ○児童が家庭学習の内容を工夫し、予習を取り入れるなど内容が豊かになってきた。 ○図書委員会の発表や「読書ビンゴ」の取組により、読書に対する意識が高まりつつあるが、家庭と連携しての取組を進めていく必要がある。											
	(改善策等) ○読書活動について、親子で楽しみながら取り組めるものを企画し、2学期の読書週間に実施するようにする。 ○授業内容と家庭学習とを連動させ、タブレット端末とノートなどを併用した「ハイブリッド型」の学習についての研修を深め、対話的で深い学びにつながるように授業改善を進めていくようにする。											
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価						
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B						
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B						
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A						
			学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、解決に向けて組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A						
	③	基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A B A	A						
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿	A A	A						
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿	A A	A						
	(成果と課題) ○ICTを活用して県内の他校との交流学習を行うことができ、児童は意欲的に自分の思いや考えを発表しようとしていた。 ○相手に自分の思いを伝える際に、きつい口調になることが増えてきた。 ○インターネットの利用時間(動画閲覧やゲームなど)が多くなっている。											
	(改善策等) ○小さなトラブルを児童に指導するチャンスと捉え、社会性とコミュニケーション能力とを育てていくよう努める。 ○授業の中で情報モラルについて学ぶ場を複数回設定する。											

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C B	C
	②	働きやすい環境づくり 業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
			・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実 管理職や学年主任、教科主任、生徒指導主事等に対し、必要に応じて報告、連絡、相談を確実に、問題を一人で抱え込まず組織で対応した。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <p>○校務におけるICTの活用を進め、取組状況の可視化を進めることができた。 ○1か月当たり80時間以上の超過勤務時間となったり、遅くまで業務に当たっていたりする現状がある。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○20時以降の時間外勤務を行う場合は、管理職に事前に連絡をするようにし、業務内容や分担についての見直しを進めていく。 ○放課後の会議等における内容の精選を進め、計画的に効率よく協議できるように努める。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	A	
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校通信の月1回の発行ができた。 ○新型コロナウイルス感染拡大状況が心配されていたが、「感染縮小期」に保護者、地域住民に来校してもらい、運動会を実施することができた。運営方法については、学校と公民館とが連携し、工夫をしていく必要がある。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○ホームページの運用についての研修を進め、様々な内容の情報が発信できるようにする。 ○教頭と公民館主事との連携を強め、定期的な情報交換だけでなく、相談体制を充実させる。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満